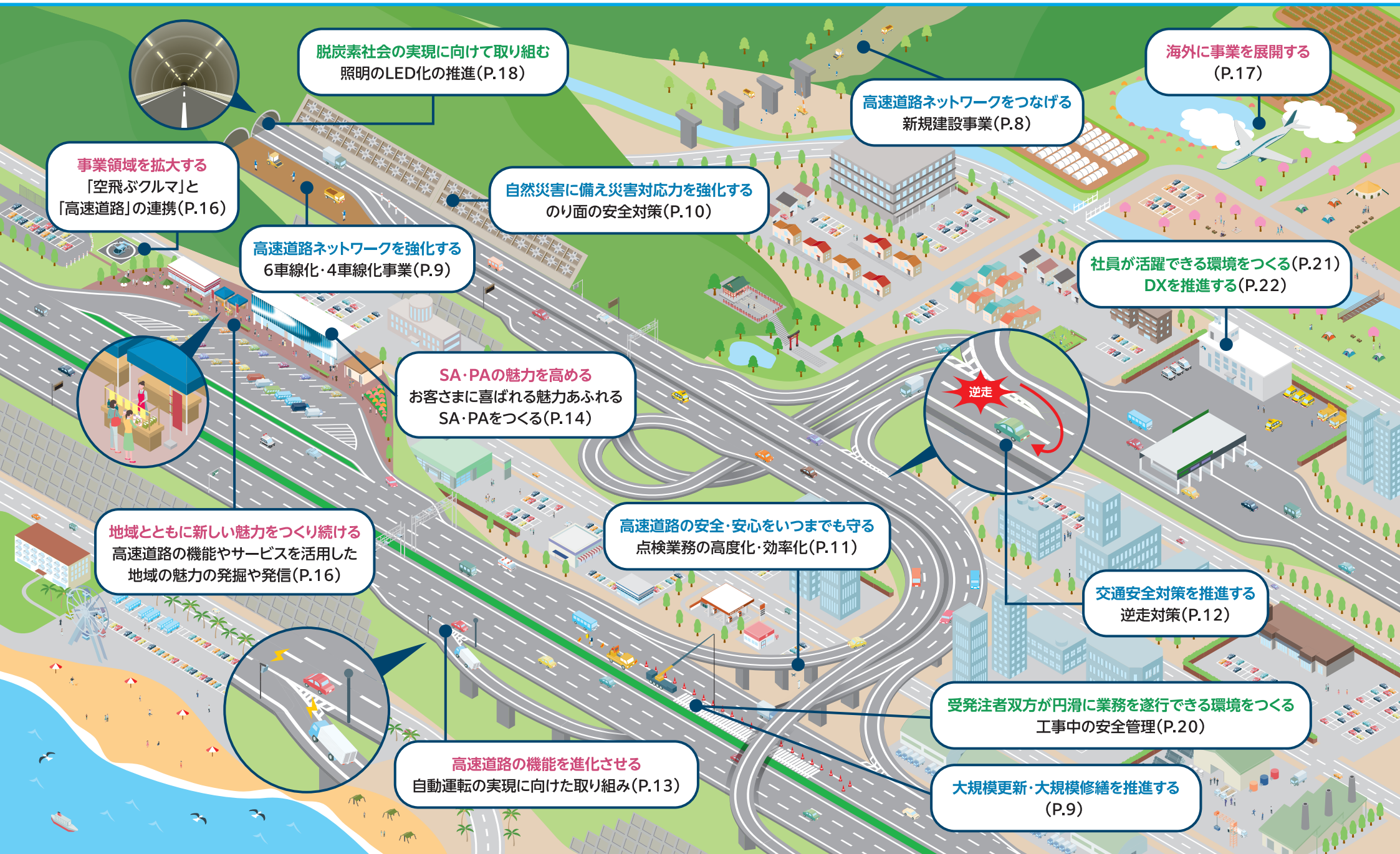


MOVE!2030

中期経営計画2030

「MOVE!2030」の目指す高速道路の姿



「MOVE!2030」始動にあたって

Message

NEXCO西日本グループは、2025年10月に創立20周年という節目を迎え、新たなステージへと歩みを進めます。その指針として今回新たな中期経営計画「MOVE!2030」を策定しました。私たちは「前進」「変革」「挑戦」「感動」をキーワードに、高速道路の機能とサービスを一層向上させ、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します。

近年、当社グループを取り巻く経営環境は急速に変化しています。自然災害の頻発化・激甚化、資材価格の高騰や労務費の上昇が顕著となり、さらに働き方改革、物流2024年問題、自動運転による物流効率化、脱炭素社会の実現に向けた取り組みなど、社会的課題への対応が求められています。

こうした状況のもと、私たちは「100%の安全・安心」の追求はもちろん、高速道路の強靱化や災害対応力の強化、新たな物流システムへの対応、休憩施設の利便性向上と魅力アップなど、事業量の増大に対応しながら、これまで以上に果敢に挑戦します。

2021年に策定した中期経営計画「進化2025」では、高速道路サービスの高度化、ICTやデジタル基盤の構築、DX推進による業務効率化・業務改革、そしてNEXCO西日本グループと社員一人ひとりの成長に取り組んできました。「MOVE!2030」では、工事の安全管理の徹底、事業マネジメントの高度化、デジタル技術の積極的活用に加え、自ら考え変革をリードする人財の育成を通じて、高速道路事業の確実な推進と高度化、関連事業の更なる展開を実現し、高速道路の未来を切り拓きます。

これから、当社グループ一丸となって「MOVE!2030」に取り組んでまいります。今後とも、当社グループへの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



西日本高速道路株式会社
代表取締役社長

浅倉 善治

1. 「進化2025」を振り返って P. 5

2. 「MOVE!2030」策定の背景 P. 6

3. 「MOVE!2030」のビジョンと施策 P. 7

4. 「MOVE!2030」の取り組み

ビジョン1

安全・安心を追求し、高速道路を未来へつなげる。

- 高速道路ネットワークをつなげる P. 8
- 高速道路ネットワークを強化する P. 9
- 大規模更新・大規模修繕を推進する P. 9
- 自然災害に備え災害対応力を強化する P.10
- 高速道路の安全・安心をいつまでも守る P.11
- 交通安全対策を推進する P.12

ビジョン2

新たな価値を創造し、地域とともに発展する。

- 高速道路の機能を進化させる P.13
- SA・PAの魅力を高める P.14
- 事業領域を拡大する P.16
- 地域とともに新しい魅力をつくり続ける P.16
- 海外に事業を展開する P.17

ビジョン3

社会から信頼され、着実に歩み続ける企業を目指す。

- 脱炭素社会の実現に向けて取り組む P.18
- 受発注者双方が円滑に業務を遂行できる環境をつくる P.19
- 社員が活躍できる環境をつくる P.21
- DXを推進する P.22

5. 経営目標・会社概要

- 経営目標・会社概要・組織図 P.23
- 事業エリア・グループ会社 P.24

1. 「進化2025」を振り返って

2021年に、未来の進化した高速道路の姿を描きながら将来のありたい姿について5つのビジョンを示し、その実現のために中期経営計画「進化2025」を策定し、事業に取り組んでまいりました。コロナ禍の影響で、交通量やSA・PAの売り上げが減少する等、取り巻く経営環境が激動する中ではありましたが、グループ社員が一丸となって安全・安心を最優先に高速道路の進化に挑み、「進化2025」の様々な取り組みを進めました。

「進化2025」のビジョン	主な重点施策	主な取り組み(2021年度～2025年度実績)
高速道路の安全・安心を いつまでも守り抜く	①点検補修の進化 ②大規模更新・大規模修繕の推進 ③交通安全対策の進化	①ドローンや高性能カメラ等の点検支援技術、デジタル技術による点検の効率化・高度化を推進。 ②高速道路リニューアルプロジェクトを実施。(約39km) ③ワイアロープによる暫定2車線区間の正面衝突防止対策を実施。(2022年度内に概成)
多発する自然災害から 地域と暮らしを守り抜く	①ネットワークの進化 ②ネットワークの強化 ③災害対応力の強化	①播磨道(播磨新宮IC～宍粟JCT)、徳島南部道(徳島JCT～徳島沖洲IC)開通。 スマートIC(雲南加茂、東温、小郡鳥栖南)開通。 ②6車線化・4車線化事業を実施。(約92km) ③耐震補強事業を実施。(約420橋)
新しいモビリティ社会に向けて 高速道路を進化させる	①高速道路機能の進化 ②物流支援 ③料金所のキャッシュレス化・タッチレス化	①自動運転システム実現に向け、次世代の協調ITSの実用化に向けた技術開発に関する共同研究を実施。 ②SA・PA駐車マスの拡充(大型車用約940マス)、ダブル連結トラック用駐車マスの整備、 シャワーステーションの新設(3か所)等の物流を支えるドライバーに必要な休憩確保の取り組みを実施。 ③料金所のキャッシュレス化、タッチレス化を促進するため、料金所のETC専用化を実施。(87料金所)
高速道路の顧客体験価値を高める	①新しい価値を提供するSA・PAの進化	①お客さまに喜んでいただけるSA・PAづくりを進め、店舗及びトイレの新設、建替え、増改築等を実施。 (店舗:新設4か所、建替え10か所、増改築4か所/トイレ:建替え13か所、内部改修15か所)
持続的に進化する企業を目指す	①高速道路を活用した地域貢献 ②DXの推進 ③環境に関する取り組みの推進 ④海外事業の発展	①地域と連携したドライブパスの販売、旅っチャ企画等の地域共創活動を展開。 ②DX戦略(NEW ACE DXs)を推進し、業務効率化、業務の安全性向上を実現。 ③EV充電インフラを整備。(給電スタンド185口設置) ④米国事業、インドネシア事業について着実に推進。



高速道路リニューアルプロジェクト(中国道 宝塚IC)



徳島南部道開通(吉野川サンライズ大橋)



駐車マス拡充(中国道 安佐SA(上))



九州道 北熊本SA(上下線)リニューアルオープン

2. 「MOVE!2030」策定の背景

当社グループを取り巻く経営環境は大きく変化

社会・経済環境の変化	●人口減少・高齢化に伴う交通需要の変化や労働力不足 ●総労働時間規制等による物流環境の変化 ●自然災害の激甚化・頻発化 ●生活様式の変化(テレワークの普及・eコマースの拡大) ●資材価格の高騰及び労務費の上昇 ●2050年カーボンニュートラルの実現
技術革新の進展	●自動運転技術の進展 ●デジタル、生成AIの技術進歩と普及 ●ICT技術による建設工事の自動化
高速道路の変化	●高速道路の老朽化の進行を背景とした大規模更新事業の実施 ●国土強靱化のための耐震補強事業、4車線化事業の実施

事業量の増大に対応しながら、これまで以上に果敢に挑戦していきます。



中期経営計画「MOVE!2030」

「高速道路事業の確実な推進と高度化」、「関連事業の更なる展開」を実現し、高速道路の未来を切り拓きます。

「MOVE!2030」というタイトルに込めた思い

MOVE! = 前進 社会・地域とともに未来へ進み、持続可能な成長を目指す。
MOVE! = 変革 全てのグループ社員が、主体的に考え、行動し、変革を実現する。
MOVE! = 挑戦 技術革新や環境変化をチャンスと捉え、柔軟に進化し続ける。
MOVE! = 感動 心を動かす価値を創造する。

SDGs達成への貢献

当社グループは「MOVE!2030」の取り組みを通じて「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献してまいります。

持続可能な開発目標

(Sustainable Development Goals:SDGs)

2015年9月、国連サミットにて「持続可能な開発目標(SDGs)」が全会一致で採択されました。2030年までに達成すべく、貧困や飢餓、エネルギー、気候変動等に関する17のゴールが宣言されています。

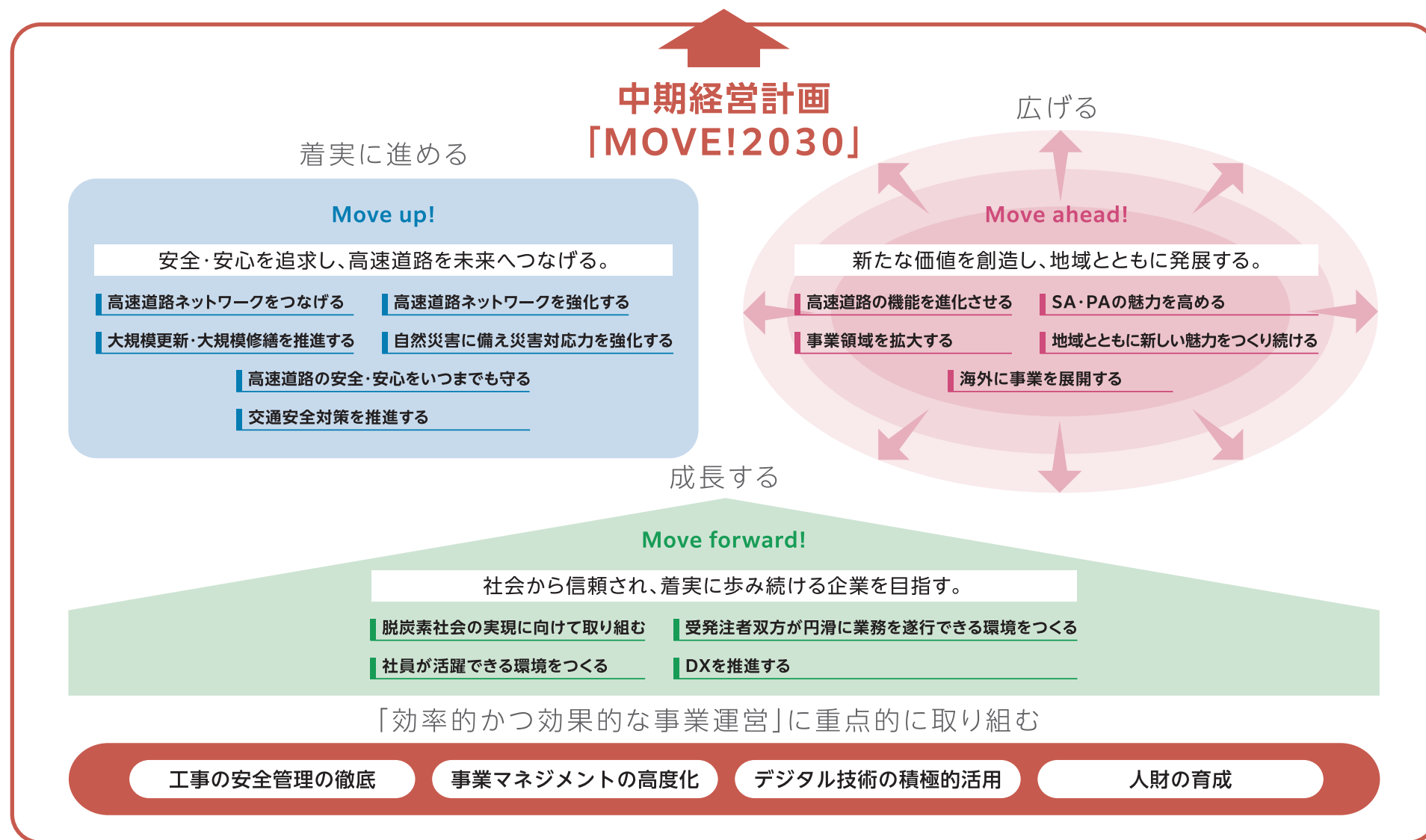


3. 「MOVE!2030」のビジョンと施策

「MOVE!2030」では、3つのビジョンのもと、各施策に取り組み、グループ理念の実現を目指します。

【グループ理念】

私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続け、
地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します。



4.「MOVE!2030」の取り組み

ビジョン1 安全・安心を追求し、高速道路を未来へつなげる。

高速道路ネットワークをつなげる

新名神高速道路をはじめとする高速道路の新規建設事業について、工事の安全を最優先に、一日も早い開通を目指して着実に事業を進めます。



新規建設事業



名称は仮称を含む

新名神高速道路 大津JCT～城陽JCT



2025年11月撮影



2025年11月撮影

新名神高速道路 八幡京田辺JCT～高槻JCT



2025年11月撮影



2025年11月撮影

神戸西バイパス



2025年11月撮影

大和北道路



2025年11月撮影

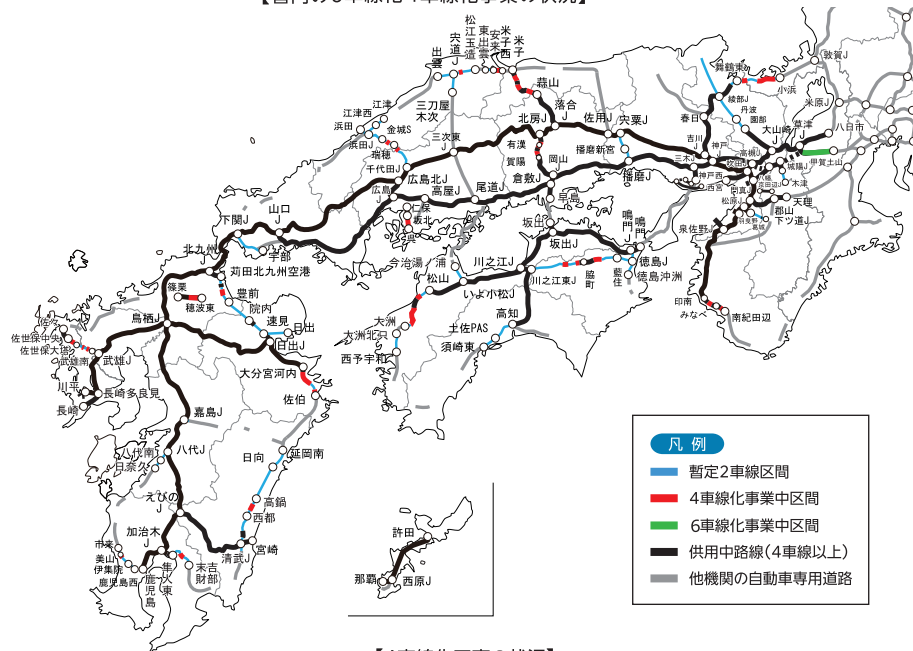
高速道路ネットワークを強化する

高速道路を、より安全で利便性の高いものにするため、ネットワークの強化に取り組みます。

6車線化・4車線化事業

安全・安心の更なる向上と、物流効率化による生産性の向上を目指し、新名神高速道路の6車線化や暫定2車線区間の4車線化事業を着実に進めます。

【管内の6車線化4車線化事業の状況】



【4車線化工事の状況】



2025年11月撮影



2025年11月撮影

スマートIC・追加IC事業

スマートIC及び追加ICの新設事業を着実に進め、地域へのアクセス向上に貢献します。



2025年11月撮影



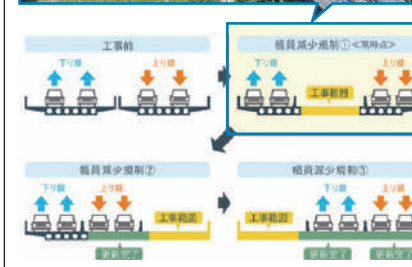
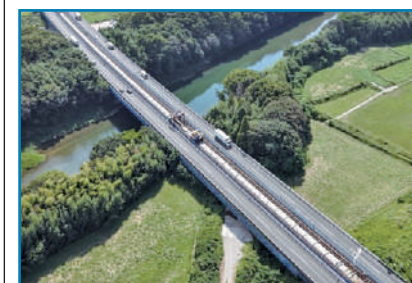
建設事業中のスマートIC・追加IC(17か所)

大規模更新・大規模修繕を推進する

当社が管理する高速道路のうち、6割以上が供用開始から30年を超え、老朽化や劣化が進んでいます。高速道路ネットワークの機能を将来にわたり維持するため、社会的影響に配慮しながら、リニューアルプロジェクトに取り組んでいます。

社会的な影響を考慮した規制

中央分離帯を活用し、現況車線数を確保して施工した事例



関西都市圏の事業計画



自然災害に備え災害対応力を強化する

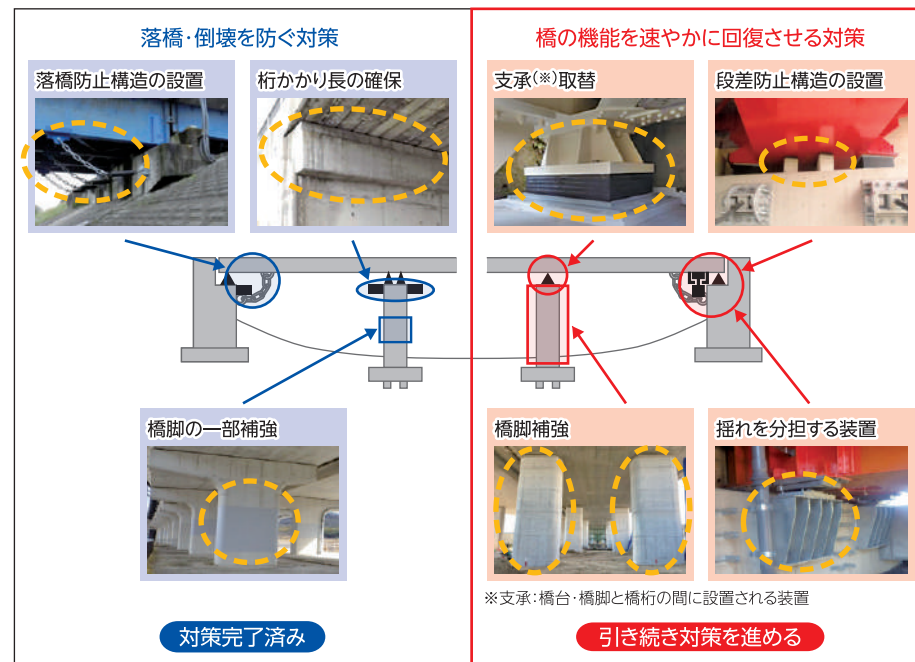
南海トラフ地震等の大規模地震や、大雨・大雪への備えを強化し、災害対応力の更なる向上に取り組みます。



大規模地震への備え

● 橋梁の耐震補強

南海トラフ地震等の大規模地震が発生した際には、人命救助や被災地復旧のため、高速道路を緊急輸送路として速やかに機能させることが不可欠です。そのため、落橋・倒壊を防ぐ対策に加え、橋の機能を速やかに回復させ、緊急車両を走行させるための対策を進めます。



● 関係機関との連携強化

災害発生時に高速道路を緊急輸送路として速やかに機能させるため、関係機関と連携した訓練を実施し、対応力の更なる強化に取り組みます。



のり面の安全対策

大雨や大規模地震が発生した際にもお客さまの安全を確保し、緊急輸送路としての機能を維持するため、のり面の補強工事を進めます。

	内 容	対策状況写真
盛 土	● 盛土のり面内の浸透水排除及び盛土のり面の補強 (かご枠工・水抜きボーリング工・鉄筋挿入工)	施工前 施工後
切 土	● 切土のり面の長期安定性の確保 (グラウンドアンカー工・排水機能強化対策)	施工前 施工後
区域外	● 航空レーザ測量を用いた土石流危険渓流の再整理 ● 関係機関との協議 ● 自衛措置の必要性について検討	航空レーザ測量 高エネルギー吸収型防護柵

大雪への備え

大雪が予測される場合は、「人命を最優先に、幹線道路上で大規模な車両滞留を徹底的に回避する」という基本方針のもと、お客さまの安全を守るため、関係機関と連携のうえ予防的通行止めを実施します。さらに、迅速かつ的確な雪氷対策作業を実施できるよう、路面監視カメラの増設や降雪量計の整備を進め体制を更に強化していきます。



高速道路の安全・安心をいつまでも守る

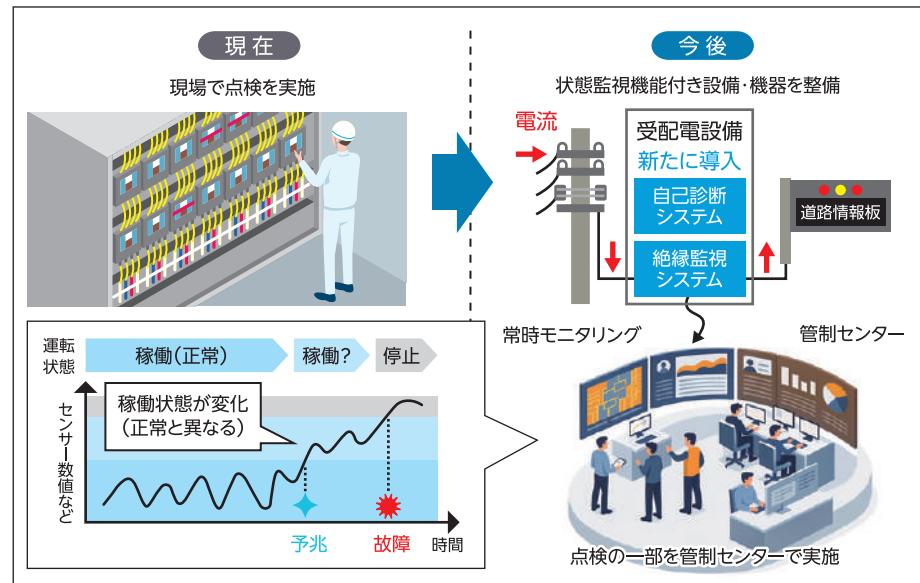
高速道路の点検・補修を着実に進めるとともに、将来にわたり健全な状態を維持するため、点検・補修作業の高度化と効率化を推進します。

設備管理の効率化

高速道路の維持管理をより効率的に行うため、設備の在り方を見直します。

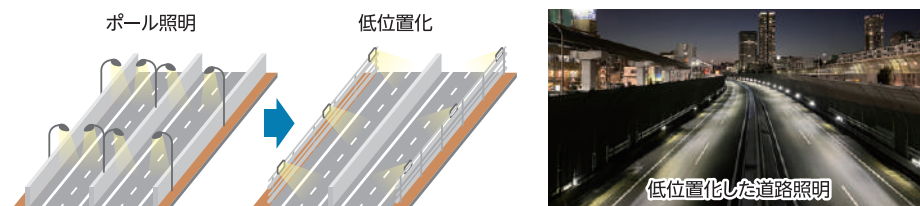
● 設備の常時モニタリングによる点検効率化

受配電設備、トンネル照明、換気設備などの常時モニタリングを実施することで、従来現場で実施していた点検の一部を道路管制センターに集約し、点検の安全性向上と効率化を進めます。



● 道路照明等の低位置化

道路照明等を低位置化することで、維持管理の効率性、設備の安全性を高めます。

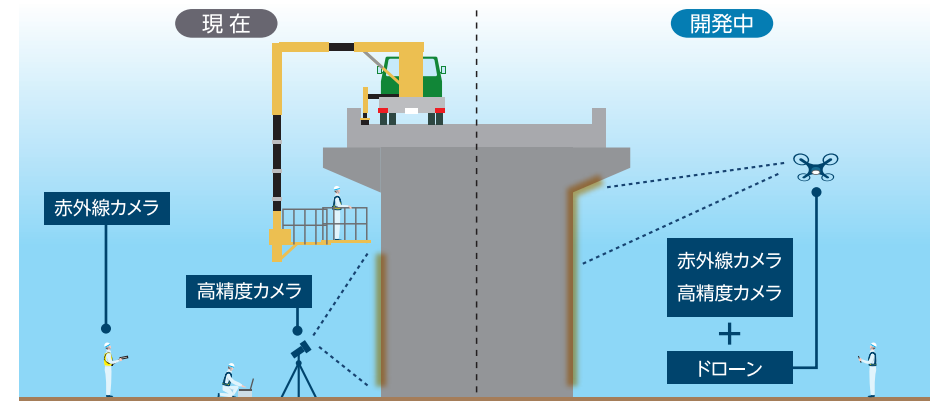


点検業務の高度化・効率化

将来の担い手不足に対応し、省人化とコスト縮減を実現するため、点検・調査技術の高度化・効率化に取り組みます。

● 新たな橋梁点検支援技術の開発

地上からの点検困難箇所に対し、高精度カメラ(AutoCIMA※¹)や赤外線カメラ(J-Evo※²)をドローンに搭載し、点検支援技術の適用範囲を拡大し、安全性向上と、高度化・効率化を推進します。



※1 AutoCIMA: 高解像度カメラを用いて、外観変状の自動検出を行う技術

※2 J-Evo: 赤外線カメラを用いて、内部変状の自動検出を行う技術

● リアルタイム動画点検の導入

現在、点検業務の高度化・効率化のため、近接目視点検に加え、ドローン等で撮影した動画を活用した点検を実施しています。今後、現地で映像を確認しながらその場で変状を判定することで、更に業務の効率化を進めます。



●より安全かつ効率的な舗装調査手法の確立

舗装構造の健全性をより安全かつ効率的に評価するため、走行中にたわみ量を計測できる調査手法を確立します。

※現在は交通規制を伴う停車状態で調査を実施し、たわみ量を計測

現在



停車し計測実施(交通規制が必要)

開発中

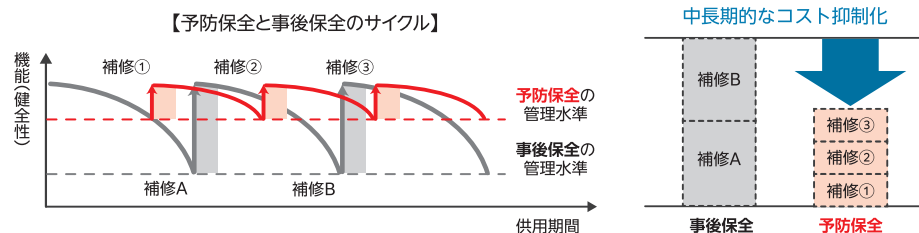
高速走行たわみ測定車
(High Speed Wheel Deflectometer)



走行しながら計測可能(交通規制不要)

予防保全

高速道路資産を長年にわたって健全に保ち、かつライフサイクルコストを抑えるため、内容を厳選しながら段階的に事後保全から予防保全への転換に取り組んでいきます。



●主要部材の劣化を促進させる損傷の補修を推進

伸縮装置からの漏水による桁端部劣化



伸縮装置の漏水対策



交通安全対策を推進する

いつでもお客さまに安心して高速道路をご利用いただくため、交通安全対策を推進します。

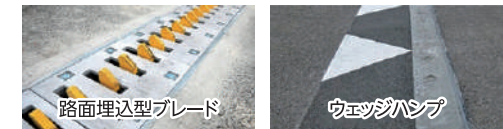


逆走対策

重大な事故につながる可能性の高い高速道路での逆走について、これまでも対策を講じてきたところですが、依然として発生が続いています。お客さまに安心して高速道路をご利用いただくため、「2029年までに逆走による重大事故ゼロ」を目指し、新たな逆走対策を実施していきます。

●重点対策箇所への対策実施

物理的対策(路面埋込型ブレード・ウェッジハンブ)を中心に導入を進めます。



逆走車両に衝撃を与え注意を喚起

●新たな公募技術の展開

新たな逆走車両検知・警告技術の検証を実施し、検証結果を踏まえ導入を進めます。



暫定2車線区間の正面衝突防止

暫定2車線区間における対向車線への飛び出しによる正面衝突を防ぐため、ワイヤロープの設置を進めてきました。さらに、ワイヤロープの設置が困難な長大橋梁やトンネルでは、安全対策としてセンターブロックやセンターパイプを設置し、その有効性を検証していきます。

対象箇所設置済み



長大橋梁やトンネルの安全対策として有効性を検証



ビジョン2 新たな価値を創造し、地域とともに発展する。

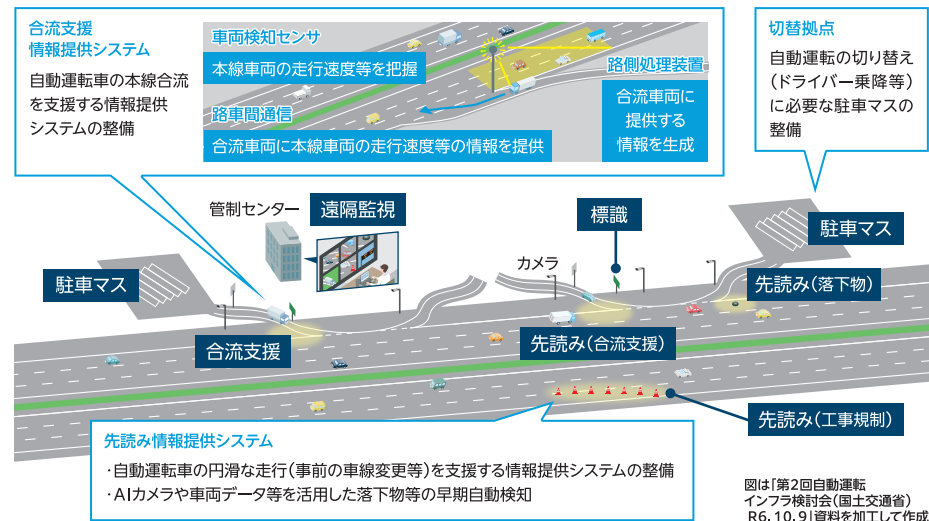
高速道路の機能を進化させる

新しいモビリティ社会の実現に向けて、高速道路の機能を更に進化させる取り組みを進めます。



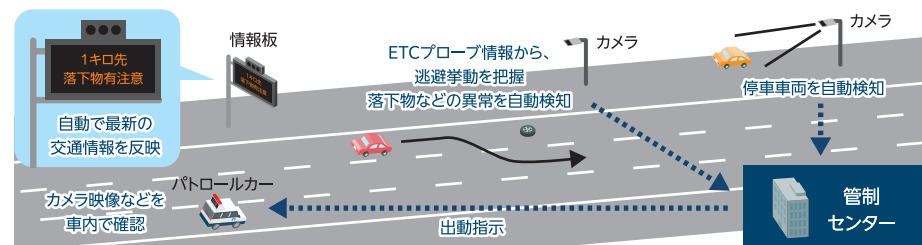
自動運転の実現に向けた取り組み

自動運転の実現に向け、国が実施する実証実験と連携し、高速道路側での支援システム導入を積極的に進めます。



道路管理情報の高度化

お客さまに安心して高速道路をご利用いただけるよう、道路管理情報の高度化・効率化に取り組みます。



料金所運営の効率化

将来の働き手減少に対応するため、ETC利用率の向上を踏まえ、料金所への遠隔管理システムの導入を進め、より安全で効率的な料金所運営を実現していきます。

【料金所の遠隔管理イメージ】

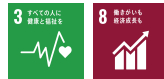


ETC専用化の推進

料金所のキャッシュレス化・タッチレス化を推進するため、引き続きETC専用化を進め、2030年度までに全体443料金所のうち、約半数の累計200料金所(うち都市部は44料金所)程度のETC専用料金所の運用開始を目指します。



SA・PAの魅力高める



お客さまに喜ばれる魅力あふれるSA・PAをつくる

多くのお客さまに喜んでいただけるSA・PAを目指して、店舗のリニューアルを行い、「くつろぎ・楽しさ・にぎわい」が実感できる店舗づくりを進めていきます。

● 第二神明道路 明石SA上下集約型リニューアル(イメージ)



海峡の街をイメージした青色の外観が目を引く、開放感あるレイアウトの店内で、明石焼きや神戸スイーツなど兵庫の名物を気軽にお楽しみいただけます。

楽しく・魅力あるキャンペーンを通じて、“いつも立ち寄りたくなるSA・PA”の実現を目指し、クルマ旅に楽しさとワクワクを提供します。

● SA・PAの新たな魅力

アニメやゲームなどのキャラクターとのコラボレーション企画を通じて、SA・PAでの楽しさやワクワクを演出

取り組み例

任天堂株式会社のキャラクター「ピクミン」をテーマにしたイベント開催(山陽道 宮島SA(下))



● 地域とつくる思い出

地元企業とタッグを組み、旅の思い出になる“ココでしか出会えない”逸品とひとときを提供

取り組み例

地元企業4社との連携企画「キン肉マンフェア2025」(山陽道 福山SA(下))



● 味わう地域の魅力

地域の味を楽しみながら、地域の魅力を発見できる、旅の思い出づくりにふさわしい機会を創出

取り組み例

【西イチグルメ決定戦2025～SA・PA肉万博～】



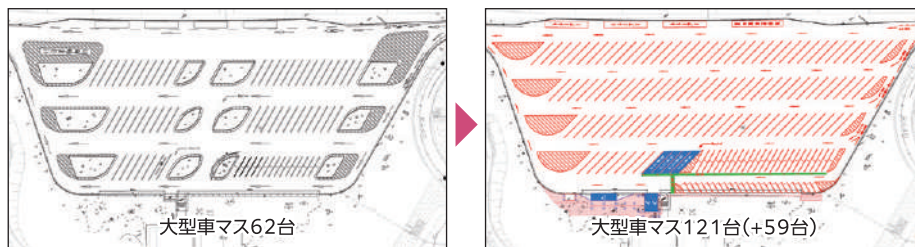
快適な休憩を提供できるSA・PAの整備

快適な休憩を提供できるSA・PAの整備を目指し、心身ともにリフレッシュできる環境づくりに取り組みます。

● 駐車マスの拡充を推進

深夜時間帯を中心に大型車の駐車マスが不足し、混雑が発生していることから、大型車の駐車マスを拡充し、休憩施設の機能向上に取り組みます。

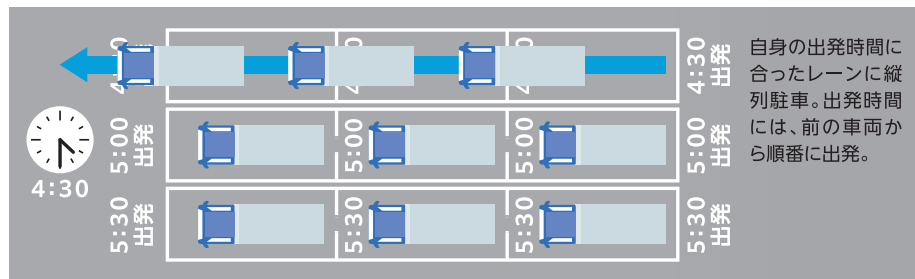
【駐車マスの増設例(新名神高速道路 甲南PA(下))】



● より多くの大型車が駐車できるコラム式駐車場を整備

大型車の駐車マス拡充の取り組みを進めるにあたって、休憩施設の敷地が限られており、単純な駐車マスの拡充やレイアウト変更には限界があることから、新たな駐車形態として、複数縦列式(コラム式)駐車場の整備を進めます。

【コラム式駐車場(イメージ)】



● 予約式駐車マスの整備

ダブル連結トラックドライバーの確実な休憩機会確保のため、ダブル連結トラックを対象に、予約式駐車マスを整備します。

事前にウェブサイトにて駐車予定時間を予約いただき、現地の予約式駐車マスでは、ETC2.0を用いて予約車両であるかどうかを判定します。



● SA・PA混雑情報提供の拡充

AI技術を活用して駐車マスの利用状況を自動で把握し、より多くのSA・PAにおける駐車場の混雑情報を、より迅速にお客さまへ提供します。

【駐車マスの混雑情報提供】



● シャワーステーションの整備

高速道路をご利用されるお客さまの疲労回復、くつろぎの提供としてシャワーステーションの整備を進めます。

【シャワーステーションの整備状況】



【シャワーステーション内】



新名神高速道路 茨木千提寺PA(上) シャワーステーション、コンビニ新規オープン(イメージ)



事業領域を拡大する



「空飛ぶクルマ」と「高速道路」の連携

株式会社SkyDriveと共同で、次世代モビリティとして期待される「空飛ぶクルマ※」と「高速道路」が連携する新たなモビリティ社会の可能性を追求します。将来のサービス実現を目指し、高速道路ネットワークを活かした「空飛ぶクルマ」の利活用策を検討していきます。

【SA・PAにおける空飛ぶクルマの活用イメージ】



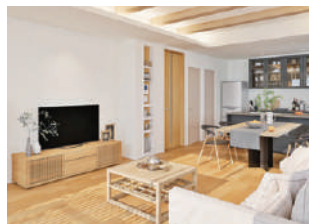
※空飛ぶクルマは、電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすい持続可能な次世代の空の移動手段です。諸外国では、eVTOL(Electric Vertical Take-Off and Landing aircraft)やAAM(Advanced Air Mobility)/UAM(Urban Air Mobility)と呼ばれています。

出典：国土交通省「空飛ぶクルマの社会実装に向けた取組について」2025年10月21日
https://www.soumu.go.jp/main_content/001036460.pdf

不動産事業の着実な推進

遊休資産の再開発を起点として、安定した収益基盤の強化と事業スキームの多様化を図りながら、多彩なパートナーとの協業を通じて不動産事業を着実に進めます。

● 保有社宅を分譲住宅として地域へ還元



住友林業株式会社との協業により、大阪府八尾市で当社初の戸建分譲プロジェクトが始動。人と街をつなぐ新たな価値を創出し、地域とともに持続的な発展を目指します。

地域とともに新しい魅力をつくり続ける



高速道路の機能やサービスを活用した地域の魅力の発掘や発信

地域とのつながりを更に深め、新たな魅力の創出と発信を通じて地域社会に貢献します。

【これまでの取り組み例】

● 地域資源の再発見 ● 新たな価値を発信

地域と新たな魅力を創出



長崎県・東彼杵町の町民・企業と「そのぎ茶」を使用した商品を開発

地域を応援できる新たな形



SA・PAでふるさと納税ができるサービスを提供(例：ふるさと納税自販機)

地域に触れる場の提供



SA・PAで地域の味や文化に触れる物産展を開催し、地域の魅力を発信

● 地域との交流人口の創出

地域への来訪意欲の喚起と 地域との新たな接点づくり



地域の魅力を詰め込んだカプセル「旅っちゃ」を、SA・PAで販売



高速乗り放題パスと地域の魅力ある施設がセットになった商品販売

高速道路 ・地域の 価値向上

● 地域の担い手との協働

地域商社との価値創出



SA・PAがない地域でも地域産品を発信する機会を創出(キッチンカー派遣)

大学生による店舗運営



学生主体で地域の特産品を都市部で発信し、地域と都市をつなぐ取り組み

海外に事業を展開する

海外事業のビジネスモデルを確立し、世界中のお客さまにより良いサービスを提供しながら、更なる成長と社会への貢献を目指します。



米国事業

米国子会社であるNEXCO-West USA, Inc.(NWU社)は、当社グループの非破壊検査技術を活用し、インフラ構造物の点検を実施しています。2011年の設立以来、120件を超える業務受注実績を積み重ねてきた活動が評価され、2024年にJAPANコンストラクション国際賞を国土交通大臣より受賞しました。

引き続き、米国及び海外において受注実績を積み重ね、当社グループの技術力やノウハウを広げることで国際的な競争力の強化を図ります。



受賞者プレゼンテーションの様子



NWU社保有技術道路橋床版点検システム
(赤外線・高解像度カメラシステム)

インドネシア事業

2014年に現地高速道路会社※への出資を通じて、日本の高速道路会社として初めてインドネシアの高速道路PPP事業に参画しました。技術指導のため社員を派遣し、道路建設・維持管理に貢献しています。現在はインドネシアにおける高速道路のうち約750kmの維持管理・運営に寄与しています。今後も、日本の高速道路の技術とノウハウを活かしてインドネシアにおける高速道路事業に貢献していきます。

※BSD社：ピンタロー・スルボン・ダマイ社。ピンタロー・スルボン道路を管理運営する。
MUN社：マルガウタマ・ヌサンタラ社。BSD社を含む6つの道路運営会社の親会社。



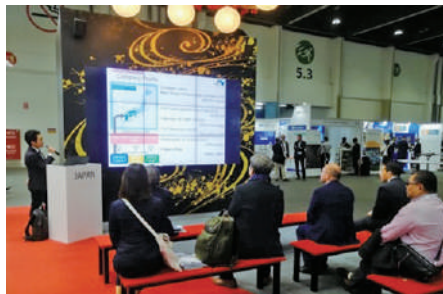
MUN社での打合せの様子



インドネシアで赤外線点検技術が適用できることを実証
(現地政府職員への実演状況)

グローバル人材育成

海外事業活動での業務経験(研修、国際会議への参加などを含む)を通じ、社員の国際的視野、コミュニケーション能力、リーダーシップや問題解決能力を強化し、企業全体の成長に資する人材を育成します。



世界道路協会(PIARC)主催の世界道路会議での
会社概要のプレゼンテーション



アジア・オーストラレーシア道路技術協会(REAAA)の
若手技術者・専門家会議における交流イベント



NWU社での短期研修(2~3週間)の風景

先進国道路PPP事業

日本の高速道路の技術とノウハウを活かすとともに、日本国内の高速道路事業に活用可能な知見獲得のため、パートナーであるJEXWAY※とともに先進国道路PPP事業への参画を目指します。

※JEXWAY：日本高速道路インターナショナル株式会社

ビジョン3 社会から信頼され、着実に歩み続ける企業を目指す。

脱炭素社会の実現に向けて取り組む



道路脱炭素化等に関する計画の策定・推進

道路法の改正に基づき、当社が策定した「道路脱炭素化推進計画」に沿って、脱炭素化の取り組みを推進します。さらに、当社の「環境基本計画2030」に基づき、毎年の具体目標（アクションプラン）を設定し、その実績を評価しながら、着実に取り組みを進めます。

CO2排出量削減目標
(Scope1・2)

2013年度
(基準年度)



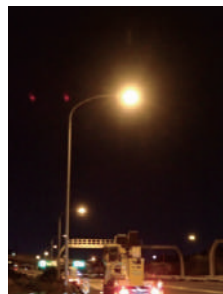
2030年度達成目標
CO2排出量50%削減

脱炭素化の取り組み

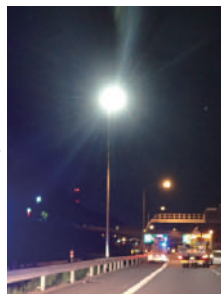
● 照明のLED化の推進

CO2排出量削減のため、トンネル照明・道路照明等のLED化を進めます。

2030年度達成目標 トンネル照明・道路照明のLED化率100%



高圧ナトリウム灯



LED灯



● 電動車の導入

道路関係車両の電動化（ハイブリッド自動車・プラグインハイブリッド自動車・電気自動車）を促進し、CO2排出量を削減します。

● EV充電設備の拡充

電気自動車の利便性向上のため、SA・PAへのEV充電設備の拡充を進めます。



【再生可能エネルギー（太陽光発電）の活用例】



新名神高速道路 宝塚北SA 建物屋上

● 再生可能エネルギーの活用

道路やSA・PA等で使用する電力に、環境負荷が少ない再生可能エネルギーの導入を進めていきます。

2030年度達成目標

道路管理用調達電力の
再生可能エネルギー比率
60%

● 低炭素化に資する材料等の導入検討

製造温度を低減することで、CO2排出量を抑えた「低炭素アスファルト」などの導入に向けた検討を進めます。



例：低炭素アスファルト舗装（イメージ）

受発注者双方が円滑に業務を遂行できる環境をつくる



現在及び将来の工事の担い手のため、働き方改革及び工事の円滑化を推進するとともに、全ての工事において安全を第一に考え、重大事故の防止に取り組みます。

働き方改革及び工事の円滑化に向けた取り組み

工事の発注者として、建設業の長時間労働の是正・工事の円滑化のため、設計図書の品質向上、適正な工期の設定、書類作成の軽減、施工管理の効率化・省力化等に取り組みます。

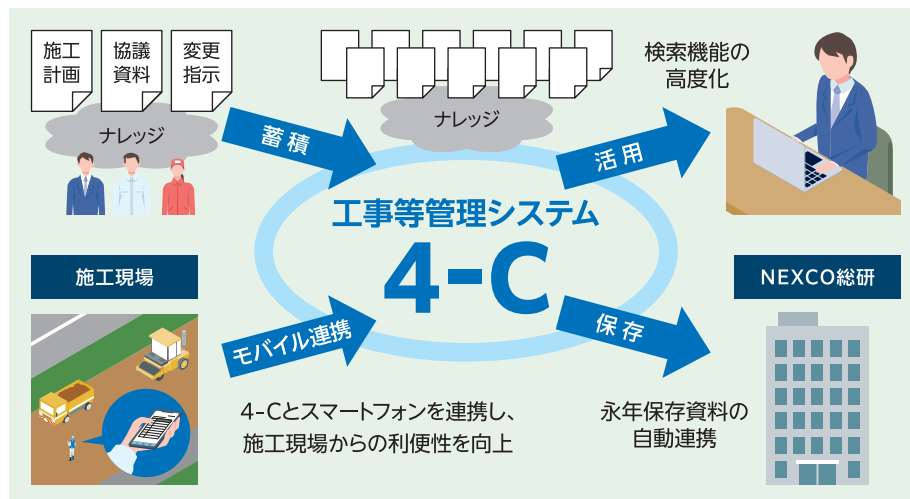
● 工事管理スリム化ガイド「4-you」による取り組み

建設業の時間外労働の上限規制へ対応するため策定した工事管理スリム化ガイド(4-you)に基づき設計図書の品質向上、適正な工期の設定、書類作成の軽減、施工管理の効率化・省力化等の取り組みを進めます。

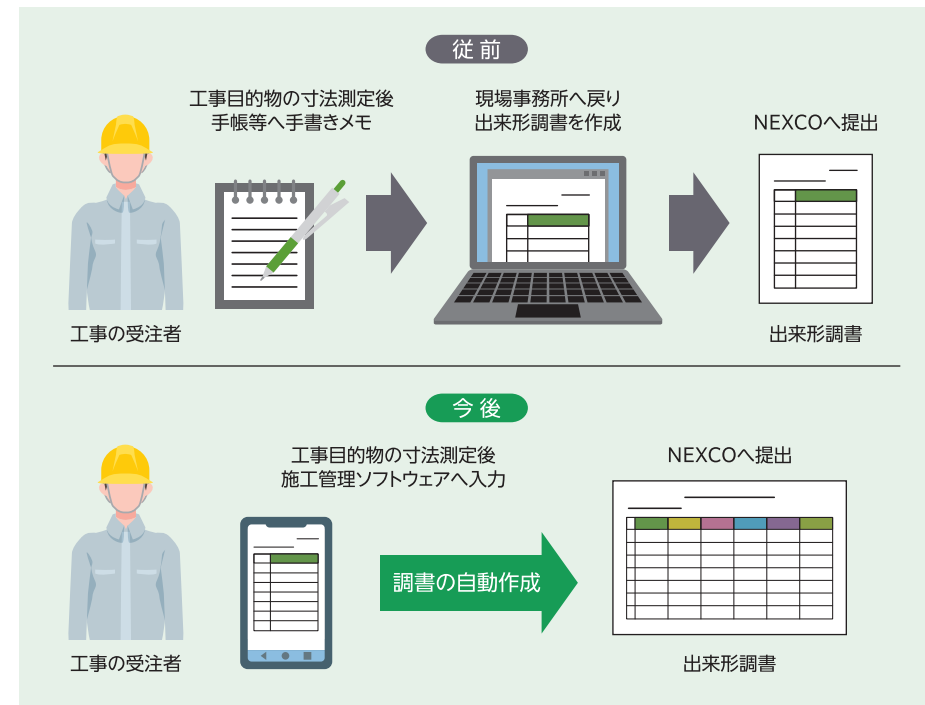


● コミュニケーションツールの拡大: 工事等管理システム(4-C)

当社は、2025年から受発注者間での書類確認やスケジュール共有、チャット等円滑なコミュニケーションを支援する利便性向上機能に重点を置いた工事等管理システム(4-C)を運用しています。2030年までに、検索機能の高度化等、更なる利便性向上に取り組みます。

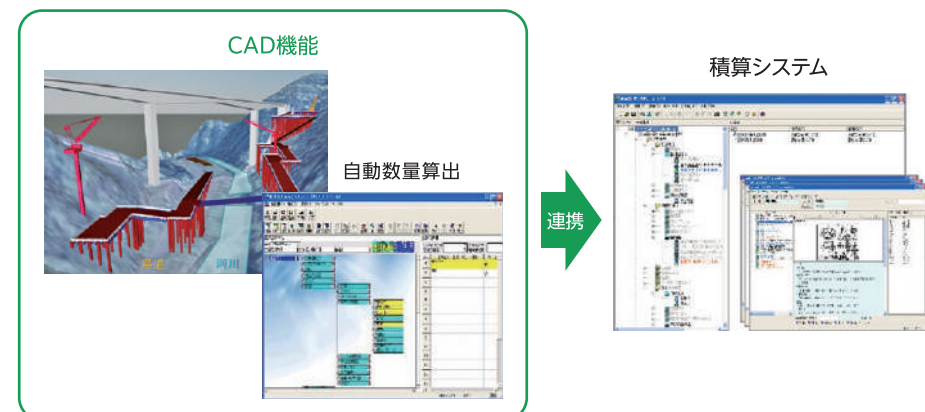


● 出来形管理等の業務フローの効率化



● ICT技術を活用した積算業務の効率化

3次元モデルからの設計数量の自動算出、積算システムとの連携・共有による電算入力作業の半自動化を目指します。



工事中の安全管理

当社グループでは、全ての工事において安全を第一に考え、「安全と品質を確保したうえで、工期内に工事を完成させ、社会に貢献する。」という受発注者共通の目標のもと、社会から信頼される会社であり続けられるよう、工事安全管理に取り組んでまいります。

●安全啓発の取り組み

工事中事故を防止するための三ヶ条を推進します。

- 1 重大事故リスクアセスメント※の着実な運用
※受注者が施工計画策定時に抽出する重大事故リスクについて、受発注者間で確認を行い、予防措置又は是正措置などの安全対策を協議するもの
- 2 現場コミュニケーションの促進
- 3 安全意識向上のための取り組みの実行
・元請・協力会社一体となった安全意識を高揚させる取り組みの実施

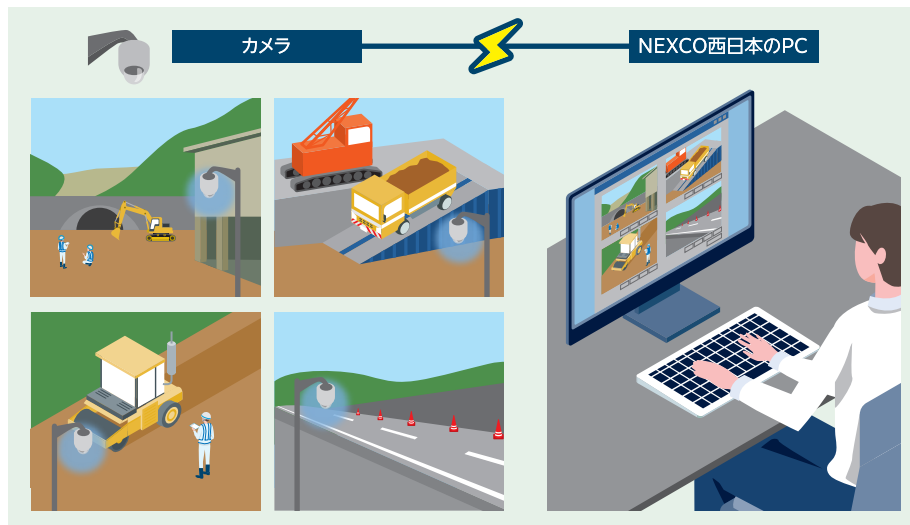
安全な施工の確実な実施を図ります。

- 1 施工計画書作成ガイドラインによる施工計画書の基本仕様の統一化
- 2 施工計画書と現場作業の整合性確認

●現場安全性向上の取り組み

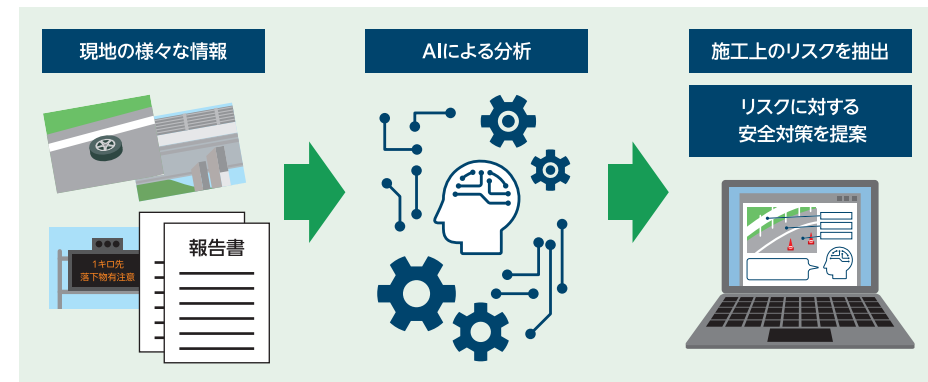
ウェブカメラによる遠隔での確認

工事の状況・安全管理状況を遠隔でも確認できるよう、現場にウェブカメラを設置し、工事の安全管理を支援します。



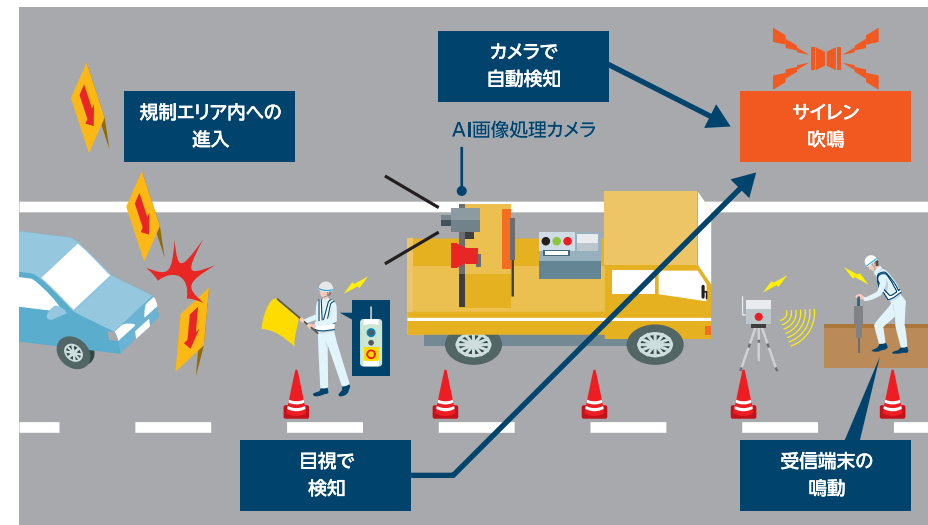
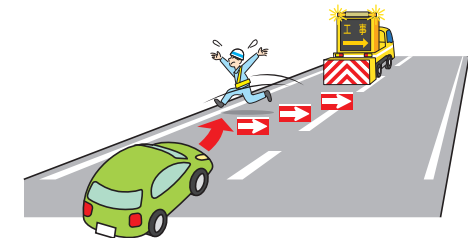
AI技術を導入した安全管理

現場での安全管理を支援するため、AI技術を活用し、社員等による安全確認をサポートする仕組みを整備します。



●高速道路上作業の安全確保

高速道路上の工事規制において、ながら運転などが原因と思われる車両進入事故が多発しています。これらの事故から作業員などの安全を確保するため、新たな技術を活用した安全対策を導入していきます。





社員が活躍できる環境をつくる

当社グループの安定的な事業運営と更なる成長に向けて、個へのアプローチの充実、多様性や自律意識向上に取り組みます。

人財育成

自ら行動するプロフェッショナル人財を育成します。

- **自律的な学習や変革につながる学習機会づくり**
自己学習ツールの充実、DXツール(生成AIなど)等の学習環境整備
- **多様な個の学びや成長が仕事に結びつく循環の構築**
人財マネジメントの充実、OFF-JTとOJT※の連携強化
※OFF-JT:研修など日常業務から離れて行う学習、OJT:日常業務の中で行う学習。
- **若手技術者の技術力向上、育成を担う中堅技術者の指導力向上**
若手技術者、中堅技術者向け研修の更なる充実
- **専門技術者の育成**
専門技術者会議等による専門知識の習得・技術伝承、学会活動支援



働きがいのある環境の整備

健康経営®を推進します。

- **からだと心が健康でイキイキと働くことができる会社の実現**
健康経営®目標達成に向けた各種施策の推進 ※「健康経営®」は、NPO法人健康経営研究会の登録商標です。

風通しの良い明るい職場をつくります。

- **社員間コミュニケーション促進**
上司と部下の1on1アプローチ※の充実
※1on1アプローチ:上司と部下が定期的に1対1で対話し、業務の進捗だけでなく、キャリアや成長、悩みを共有することで、信頼関係を深め、主体的な挑戦を促す取り組み。
- **働きがいの向上**
ワークエンゲージメント※スコアの導入
※ワークエンゲージメント:社員が仕事に対してポジティブな感情(活力、熱意、没頭)を持ち、主体的に取り組む心理状態。

社員が安心して快適に暮らせる住環境を整備します。

- **社会の変化に応じた社宅、住宅支援等制度の拡充**



キャリア自律支援

DE&I(ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン)※を推進します。

※DE&I:多様性・公平性・包括性を重視し、異なる背景を尊重しながら誰もが活躍できる環境を整える考え方。

- **多様な社員の活躍促進**
女性エンカレッジ(応援)プログラム推進、キャリアデザイン支援充実
女性技術者交流フォーラム…受発注者の若手女性技術者の視点を取り入れ、
多様な人々が働きやすい環境整備を推進
リスキリング研修の充実
意見の多様性を尊重する風土醸成
- **仕事と家庭の両立支援**
男性育休取得率及び取得日数向上が可能な環境整備

自律的な働き方を支援します。

- **個々のキャリア意欲の形成支援**
キャリア自律研修、フォローアップ面談の充実
- **自律的なキャリア選択を可能とする人事制度の拡充**



DXを推進する

当社のDX戦略「NEW ACE DXs」に基づき、新しいデジタル技術を導入・活用することで、高速道路マネジメントの高度化、業務効率化と自動化の実現を目指します。

NEW ACE DXsの取り組み

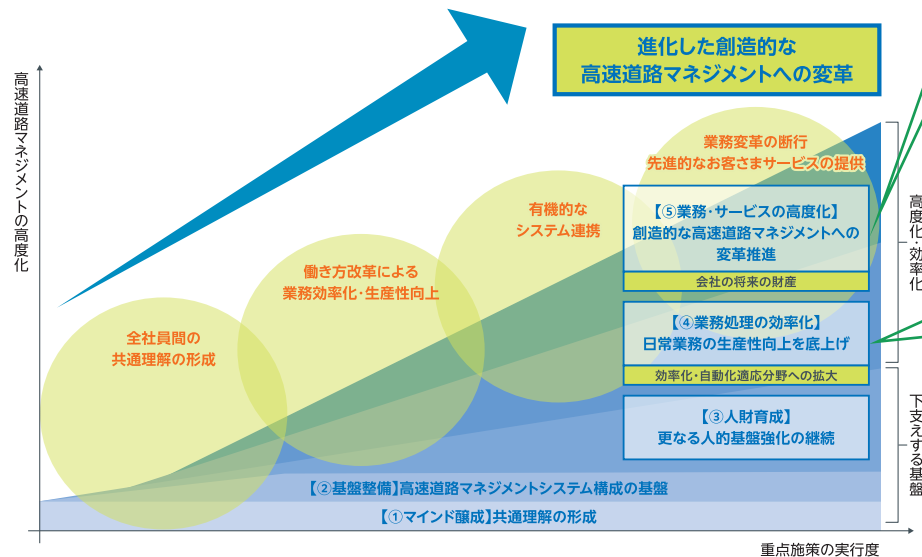
● 目的

デジタル技術を活用し、人に頼る業務や作業の改善を図る等の働き方改革による業務効率化・生産性向上を推進し、高速道路事業を進化させる。

業務フローの大胆な刷新や新たなチャレンジへつなげることで、創造的な高速道路マネジメントへの変革を遂げ、グループ全体の企業価値を最大化させる。

NEW ACE DXs

“西日本高速道路”の「NEXCO West」の単語の頭文字N・E・Wに“先進的な挑戦と進化がDX戦略を推進する”を意味する「Advanced Challenge and Evolution will drive DX strategy」から、先進的なチャレンジの「Advanced Challenge」進化「Evolution」の単語の頭文字A・C・Eを組み合わせで定めたものです。



NEXCO West ACE DXs

● DXによる高速道路マネジメントの高度化、業務効率化イメージ

【業務・サービスの高度化】

デジタル技術の活用により、高速道路サービスを更に高度化します。

6車線化や技術開発で後続車無人隊列走行など自動運転に対応



センサーや衛星データで変異・土壌水分を計測し、のり面などをモニタリング



CCTVカメラでのAI画像処理やETCプローブデータで事故などを早期発見・対応



カメラでのAI画像処理で駐車マス混雑情報の提供を自動化

iHighwayへの情報提供・空ロットマップの表示

方面	名称	道路区別	小形	大型
上り	香取PA	空	空	空
上り	香取PA	空	空	空
下り	香取PA	空	空	空
上り	大津SA	空	空	空



【業務処理の効率化】

日常業務の生産性向上により、更に効率的な事業運営を実現します。

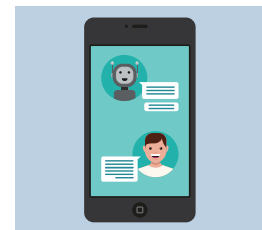
ICTの活用で設備管理・点検の遠隔化・省力化・高度化



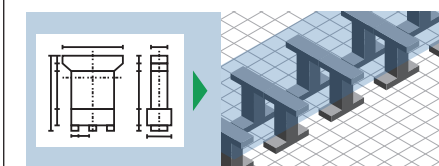
システム化や生成AI、AIエージェント、RPAの活用で業務を効率化



有人チャットやAIチャットボット、リモート対応でお客さま案内品質の向上と省人化



3次元モデルを活用した設計・施工で効率化・高度化(BIM/CIMの取り組みの推進)



5. 経営目標・会社概要

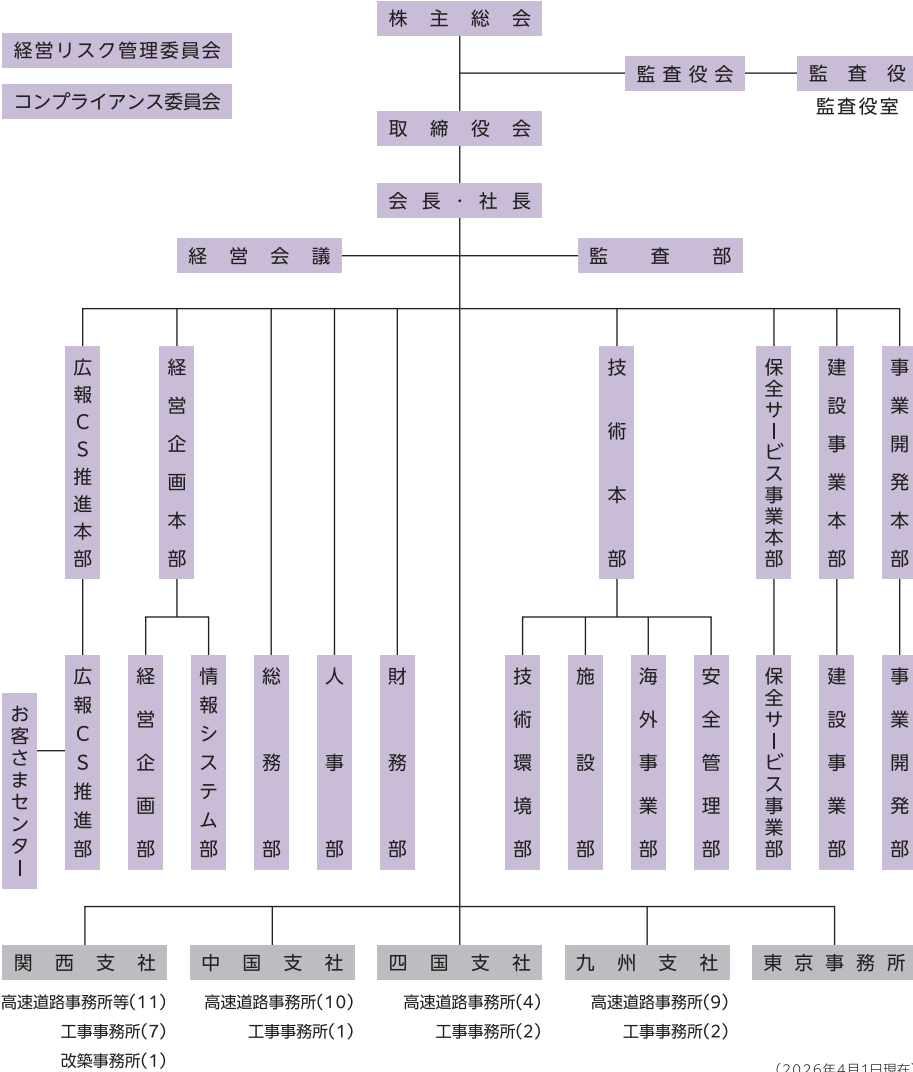
経営目標

2030年度目標値			
道路事業	死傷事故率	3.6件／億台km	自動車走行車両1億台kmあたりの死傷事故件数
	逆走事故件数	0件	逆走による年間事故発生件数
	快適走行路面率	95%	快適に走行できる舗装路面の車線延長比率
	渋滞損失時間	低減を図る	渋滞が発生することによる利用者の年間損失時間
関連事業	SA・PA事業(連結)営業利益	50億円	

会社概要

商号	西日本高速道路株式会社 (West Nippon Expressway Company Limited)
代表者	代表取締役社長 芝村 善治
従業員数	2,739名〔グループ全体16,250名〕(2025年9月30日現在)
資本金	475億円
設立年月日	2005年10月1日
本社所在地	大阪市北区堂島1丁目6番20号

組織図



(2026年4月1日現在)

事業エリア

高速道路事業

営業中道路 3,625km
 IC 数 IC 479か所 うち、スマートIC 39か所
 利用台数 306万台/日(2024年度実績)
 料金収入 7,801億円(2024年度実績)
 建設中道路 新設区間56km 6車線化区間22km* 4車線化区間183km
 ※6車線化の延長には、新設事業中の新名神(大津JCT～城陽JCT、八幡京田辺JCT～高槻JCT)を含まない

SA・PA事業

サービスエリア 100(94)か所
 パーキングエリア 213(100)か所
 売上高 1,794億円(2024年度実績)*
 ()は、第三セクターの運営を除いた
 有人の営業施設の数
 ※飲食物販、ガソリンスタンドの売上高



グループ会社

連結子会社 27社

●料金収受

西日本高速道路サービス関西株式会社
 西日本高速道路サービス中国株式会社
 西日本高速道路サービス四国株式会社
 (※交通管理も実施)
 西日本高速道路サービス九州株式会社
 西日本高速道路総合サービス沖縄株式会社
 (※交通管理、点検・管理、保全作業も実施)

●交通管理

西日本高速道路パトロール関西株式会社
 西日本高速道路パトロール中国株式会社
 西日本高速道路パトロール九州株式会社

●点検・管理

西日本高速道路エンジニアリング関西株式会社
 西日本高速道路エンジニアリング中国株式会社
 西日本高速道路エンジニアリング四国株式会社
 (※保全作業も実施)
 西日本高速道路エンジニアリング九州株式会社
 西日本高速道路ファシリティーズ株式会社
 (※保全作業も実施)

●保全作業

西日本高速道路メンテナンス関西株式会社
 西日本高速道路メンテナンス中国株式会社
 西日本高速道路メンテナンス九州株式会社

●不動産関連業務及び人材派遣業務

西日本高速道路ビジネスサポート株式会社

●SA・PAの運営・管理

西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社
 西日本高速道路ロジスティックス株式会社
 西日本高速道路リテール株式会社

●一般自動車道事業

芦有ドライブウェイ株式会社

●海外事業

NEXCO-West USA, Inc.

●橋梁補修技術の開発及び工事・コンサルタント・

調査等事業

株式会社富士技建
 NEXCO西日本コンサルタンツ株式会社
 NEXCO西日本インベーションズ株式会社

●維持管理システム・ITインフラ等業務

NEXCO西日本情報テクノロジー株式会社

●広告事業

NEXCO西日本コミュニケーションズ株式会社

持分法適用の子会社 1社

●SA・PAの運営・管理

沖縄道路サービス株式会社

関連会社 6社

●システムの開発・改良及び運用管理

株式会社NEXCOシステムソリューションズ

●研究及び技術開発

株式会社高速道路総合技術研究所

●料金収受機械等保守整備業務及び

料金収入計数管理業務等
 高速道路トルテックテクノロジー株式会社

●保険代理業務

株式会社NEXCO保険サービス

●トラックターミナルの運営

九州高速道路ターミナル株式会社

●海外事業

日本高速道路インターナショナル株式会社

(2026年4月1日現在)